

**カラオケBOXにおける若者行動と意識
に関するマーケティングデータ
(簡易版)**

朝日大学マーケティング研究所

調査概要

調査方法	デプスインタビュー（個別面接法）
調査期間	2002年10月17日（木）～10月22日（火）
調査対象	愛知、岐阜在住の高校生、大学生、社会人で、 カラオケBOX利用者 週1回以上利用者（ヘビーユーザー） 月1回程度の利用者（ミドルユーザー）
調査数	8名
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・顧客の日常行動・来店意識、来店目的、来店頻度・店舗選択要因・情報源・店内での行動（歌う回数、順番、選曲の仕方、歌い方）・店内での意識（気分、盛り上がりの要素、本物志向、歌い心地）・滞留時間・機器機能の利用、・ブランド認知、好感度、イメージ競合比較 など
調査場所	当研究所にて

1. 遊びに占めるカラオケの位置付け

高校生、大学生にとっては遊びの定番

高校生、大学生にとって、遊びスポットはカラオケかボーリングというのが定番である。カラオケかボーリングのどちらかが選択されることが多いが、「ボーリングをした後にカラオケ」という場合もある。

なかでも、カラオケは重要な位置付けにあり、高校生では、遊びの6割程度、大学生では、3割程度を占めている。

ストレス発散の場として最適

高校生、大学生がストレス発散できる場所として、カラオケボックスは最適のようだ。「歌って騒いでスカッとする場として、他に代用できるものはない」とまでいう高校生もいる。「自分の歌いたい曲を歌い放題歌って満足感が得られる場所はカラオケぐらいしかない」とも言う。歌っている間は自分のわがままを許してもらえ、そして、みんなが自分に注目してくれる、気分のよい空間である。

<具体的な発言事例>

高校生、大学生にとっては遊びの定番

「(カラオケは遊びの中の)60%ぐらいかな。大体いつも遊びに行く時に、行きたいなって思うけど、やっぱり相手が行きたくないって言うと、私が『じゃあ、行く子と行くから。』ってなりますね。(遊びの中でカラオケは)結構重要ですね。」

<大学3年生・女・20歳・月に2~3回>

「(カラオケは)高校の時とかは、結構5、6人とかでめっちゃめっちゃ行った。週1当たり前みたいな感じで行ってたから。(遊びの中で)60%ぐらいカラオケが占めていて、あとはイトーヨーカドーでおしゃべりだったんですよ。そんな感じだったんですけど、今はね、あんまり最近行けないから30%とか」

<大学1年生・女・19歳・月に2~3回>

「カラオケとボーリングはセットみたいな感じ。一緒に行くとか、今回カラオケに行ったから、今度ボーリングにしようとか。」

<大学1年生・女・19歳・月に2~3回>

「行くとしたら、打ち上げの時はカラオケがやっぱり定番。あと、同窓会とか。」

<高校2年生・女・17歳・月に2~3回>

「(打ち上げの時はカラオケが)絶対。定番。高校の行事の打ち上げとかで、それはもう定番。」

<高校2年生・女・17歳・月に2~3回>

「(放課後は)友達と話したりするのが主で、あとは買い物に行ったり、カラオケとかボーリングとか、それぐらいですかね。遊びの中でカラオケは30%位。高校生はもうカラオケ頻繁に行ってたんで、50%とか。もっと減ってるかもしれない。」

<大学3年生・女・20歳・月に2~3回>

「4、5人位集まると、『え、どこ行く?』『どこ行く?』って、『ボーリング?』『カラオケ?』って、4つ位案が出た中で、『ああ、じゃあ、カラオケに行こっか。そんなにお金もかかんないし。』って。」

<大学3年生・女・20歳・月に2~3回>

ストレス発散の場として最適

「歌は好きなんでマイクでも歌ってみたいけど、でもそんなテレビとか出たくないとか思って。でもね、カラオケに行けば、その時だけはなんていうのかな、みんなが、私の友達とかでも私の歌を聞いてくれるし、それで『上手いね。』って言われて、まあいいかなっていうふう。」

<大学3年生・女・20歳・月に2~3回>

「私、結構自分が一番でおりたいなっていうのがあるけど、日常生活でそんなの出したら、『こいつわがままだけじゃん。』っていう感じになっちゃうけど、カラオケだったら別に、そのマイク持っている瞬間は、歌っている時はみんな私を見してくれるしそれがいいかなって思ったり。普段はあんまりそんなことばかり言っていたら、友達いなくなっちゃうから。(わがままできる?)その時だけは、見てもらえる。」

<大学3年生・女・20歳・月に2~3回>

「別にみんなに聞かすために歌ってるんじゃないで、もう自分で歌いたいだけ歌ってって。盛り上げられればバンザイっていう感じ。」

<高校2年生・女・17歳・月に2~3回>

「(他のものに代用できますか?)カラオケ...。出来ないと思います。なくてはならない。(カラオケに行く目的は)その場を楽しむのと自己満足。」

<大学3年生・女・20歳・月に2~3回>

「カラオケの方は、自分の中でたまっていたもやもやみたいなのを友達と普通に話せるっていうか。」

<浪人生・男・18歳・年に数回>

「(カラオケは)みんなでワイワイできる。あんまり騒がない人も、なんか踊ったり。(マイクを持って歌うと)入り込む。(自分を)忘れる。(自分が歌っている時にみんなが聞いていないと)泣きたくなる。」

<高校3年生・女・17歳・月に2~3回>

2. 他の遊びとの違い

気軽に楽しめて、飽きない遊び

ボーリングは、単調で、すぐに終わってしまうが、カラオケは自分たちの気分によって歌のジャンルを変えるなど、アレンジが出来て、長い時間いられる。また、ボーリングは服装を考えなくてはならないが、カラオケはあらかじめ予定していなくても、その場で「行こう」と決られる。カラオケは、高校生、大学生にとって一番身近で、気軽に楽しめる遊びである。

自分たちだけの密室

喫茶店では、あまり大きな声で話せないが、カラオケボックスでは、かなり大きな声で話しても他人に迷惑がかからない。個室、すなわち、自分たちだけの環境(密室)なので、人目を気にせず、安心しておしゃべりができる。疲れている時、ゆっくり話したい時はカフェに行く、先生のこと、お金のこと、進路のことなど、周りを気にせず、何でも気兼ねなく話ができるのはカラオケボックスである。

特に、親しい友人と行くときには、プライベートが守られればよいが、覗かれるような部屋、顔が見える部屋では満足できない。

高校生、大学生にとってカラオケボックスは、靴が脱げて、お菓子が食べられて、飲み物が飲める、誰にも邪魔されないくつろぎの場所であるといえる。

< 具体的な発言事例 >

気軽に楽しめて、飽きない遊び

「(初めからカラオケに行こうと決めて行くのですか?) たぶん、いきなり。いきなり『カラオケ行かない?』って言って、カラオケに行く時もありますね。」

< 大学3年生・女・20歳・月に2~3回 >

「ボーリング行く時は、服装とか考えなきゃいけない。でも、考えなくていい、カラオケは、(カラオケとボーリングの違いは)ボーリングは単調。だけど、カラオケは色々シックなものもあるし、楽しいノリノリなものもあるし、何でも自分でジャンルを選べるけど、ボーリングとか2ゲームとか同じ事繰り返すだけだからすぐ終わっちゃうし。だから、自分でジャンルを選べるし、気分によっても変えられるから、『カラオケに行く?』とかいう感じになったりとか。ボーリングだと、誰がやってもボーリングって感じだけど、カラオケは違うかなっていう。」

< 大学1年生・女・19歳・月に2~3回 >

「結構、学校で話してるのが盛り上がり、『あー、じゃあそのままの勢いで。』みたいな。盛り上がりで。」

< 高校2年生・女・17歳・月に2~3回 >

「カラオケ、結構どこにでもあるし。で、結構安く行けるし、楽しい。ボーリングよりカラオケの方が、そこら中にある。(ストレスは)カラオケの方が発散できる。大きな声出すことで、たぶんすごい、それで発散だし。あと、音楽とかも聴いてることで、お菓子とか見たりして『ああ、もう癒されるね。』って友達とも言って、騒ぐことが楽しい。」

< 大学3年生・女・20歳・月に2~3回 >

「学校帰りに、みんなで『行きたいね。』っていう話になると行く。」

< 高校3年生・女・18歳・月に2~3回 >

自分たちだけの密室

「カラオケだとくつろげる。なんとなく。靴脱げるし、別にお菓子も食べれるし、飲み物も飲めるしとか思って。(他の人がいたら)嫌だ。そうしたらちょっと考えちゃうかなって感じですけど。(他に人のいる)喫茶店だと、こんな感じの声(あんまり大きくない、2人で聞こえる程度)でしかしゃべれないけど、カラオケだとめっちゃめっちゃ大きい声でしゃべっても誰にも迷惑にはならないかな、ドア閉めてしまえば。」

< 大学3年生・女・20歳・月に2~3回 >

「あとは、何もまわりのことを考えなくていいから、カフェとかだと多少は考えたりとかしないといけないし。で、あんまり長居すると、混んでいたりとかするとダメだし、それなりに出ないといけないから。(カラオケは)人のこと考えなくていいし、自分の時間っていうのが決まっていて、フリー(タイム)とかだと、何時から何時までは何にも言われなくていいか。」

< 大学1年生・女・19歳・月に2~3回 >

「(カラオケは)密室っていうか、自分達だけって感じの環境だし。ボーリングは人もいろいろいるから。(ボーリングでも)騒ぐけど、(カラオケの方が)騒ぎやすい。(カラオケボックスでは)お菓子とジュースがあって、(自分で)持って来る。それで歌って、踊る子もいるし。あとオールとかおちゃえば寝てる子もいるし。あと、しゃべったり、それぐらいかな。」

< 大学3年生・女・20歳・月に2~3回 >

「密閉空間。部屋は防音だから、何を話しても平気な感じで、学校でもないから、先生とかも来ないし、安心して話せる。」

< 高校3年生・女・18歳・月に2~3回 >

「人目を気にせずにおしゃべりできる。(他にそういう場所は)ないです。(カラオケボックスにいると)話がはずむとか。(学校にいる時と話す内容は)違う。(カラオケボックスでは)先生のこととか、お金とか。進路も時々。(他の場所では)話す気になれない。(他の場所では)あんまり大したことない話。(カラオケボックスで深い話を)する時も。(曲を止めて?)いや、隣にいる人と。」

< 高校3年生・女・17歳・月に2~3回 >

3. 「歌いやすさ」とは

「歌いやすさ」はCDの曲に似ているかが基準

「歌いやすさ」は、普段聴いている原曲と似ているかどうかで判断されている。具体的には、メロディラインや音色が、アーティスト本人が歌っているCDと似ているかどうかということである。歌い出し(入り方)や音の高さが、CDと違うと感じる場合や、歌の途中でもおかしいなと思う部分がある場合、「歌いにくい」ということになる。

本物になりきりたい

原曲とまったく一緒であれば、自分が本物になれた感じで気持ちがよいが、いつも聴いているCDと大きく異なると気分よく歌えない。

自分のキーに合った曲を歌ったとき

「歌いやすかったかどうか」は、カラオケに行った本人が上手く歌えたかどうかにかかっている。本格的な「音のよさ」を追求するあまり、素人がスムーズに歌えるかどうかを無視してしまうと、「歌いにくい」という結果になり兼ねない。

音をハズしたり、声が裏返ったりしたら、その曲は二度と歌わないし、そのカラオケボックスは歌いにくいということになる。

<具体的な発言事例>

「歌いやすさ」の基準

「(いつも聞いているCDに近い方が)やっぱりいい。『あれ?』って思わないから。(CDの音そのものであればいい?)そう。それで、歌い出す時に気持ちがいい。マイクもあるけど、やっぱり曲も関係ある。両方関係ある。(かかった瞬間に分かる)っていうのもあるし、歌っていて、サビの部分でおいしいなとかいうのもあるし。」

<大学1年生・女・19歳・月に2~3回>

「(キーを操作すると)曲の感じが変わるような気がして、自分が好きな曲を歌うじゃないですか。だけど、やっぱり調が変わっちゃうと、なんか私の中では違う感じがして。(CDと)違ったら嫌で。厳密に言ったら、やっぱりカラオケってCD通りの音じゃないって言うのもちょっと、前から。それはしょうがないって思ってる。でも、調が変わっちゃうと、私がいつも聞いてて聴き慣れた曲とは違うなって思うんで。」

<高校2年生・女・17歳・月に2~3回>

「(イントロが違うと)歌いにくいのはあって、音が変わると、声の高さも変わるから、なんか、私は歌いにくくて。イントロで、いつも聴き慣れてない音だと、どこから、どこの音から歌いはじめて良いかわからないから。」

<高校2年生・女・17歳・月に2~3回>

「最初歌い始めて、『あれ?』とか思う。歌い始めてから。カラオケの音がちょっと違うのは、違うなって思ってるから。そこまで違和感は。うち、家でも結構CDと一緒に歌っちゃったりとかもあるから、そういう時とは違うかなって。歌いやすさ。音程かも。」

<高校2年生・女・17歳・月に2~3回>

「音が原曲に近いとやっぱりいいかな。(違うと感じるのは)原曲だとよく聞こえる音が入ってないなかったりとか、そういう時。(歌っている時と間奏で聴いている時)両方とも。間奏の間に入っている音が違う。原曲に近い方がいい。」

<高校3年生・女・18歳・月に2~3回>

本人になりきりたい

「例えばMISIAとかで、本人が歌っているのと比べて音が似ているなと思ったり。あんまり違いすぎると、『あー、なんか私カラオケに来たのに、なんでこんなに違うんだろう。』って思っちゃったり。(本人)みたいに、高い声で歌っちゃいますね、いつも。違うとなんか嫌だと思って。(CDやテレビと違うと)だったら、カラオケじゃなくて、普通にその辺で口で歌っていた方がいいかなって思っちゃいますね。」

<大学3年生・女・20歳・月に2~3回>

「原曲に近い方がいい。(原曲と同じだと)気分いいかな。本物に近い方がうれしい、聞いている方も。(自分も本物になれた感じ?)たぶんそんな感じのかな。(原曲と同じようになつたら、自分が歌手と違うから嫌って感じると思いますか?)それはやっぱりあると思います。」

<F1・高校3年生・女・18歳・月に2~3回>

自分のキーに合う曲を歌った時

「聴いてる曲がバンドが多いから、その曲を歌ったり。女の人だと高いキーが出ないし。歌うんだったら、そんな下手くそな歌は聞かせたくないし、できれば『あ、うまいな。』とか思わせたいから。できれば、女の方は歌いたくない。歌っても、結構キーが低めの女の人とか。(自分の声に似た人を選んできますね。)

<高校2年生・女・17歳・月に2~3回>

「(男性アーティストは)歌いにくいから私は歌わない。音をどこまで合わせていいかわからなくて、男の子いたら歌ってもらったり。やっぱ、自分の歌える曲を入れて、すごい声とかもちゃんと出て、場も楽しくて、もうそういう時は歌ってて気持ちいいって。声の通りが良い。(音が違うと思う時は)なんか、歌ってて違う。音のキーが違う。途中で。歌ってて、『あれ、何か合わない。え、合わない。』と思って。『え、どこのキーで歌うんだろう。』とか思って。」

<大学3年生・女・20歳・月に2~3回>

「(どんなに好きな曲でも歌えない曲は)あります。キーが合わない。(一回キーが合わなかったり、外した曲は)もう歌わない。」

<F2・高校3年生・女・17歳・G1・月に2~3回>

4. 小人数でのカラオケ

小人数の場合は、自分が歌いたい曲を選曲

小人数でカラオケに行く場合は、自分が歌いたい曲を歌う。仲の良い友達同士では、皆が知らない曲でも気にせず気軽に歌える。「知らない曲だけどちょっと黙って聞いて！」といった感じである。また、新曲に挑戦することも多く、ちょっとした「ヘマ」でも笑ってごまかせる。

最初は皆が知っている曲

どちらかという自分の歌に自信のない人は、最初から新曲を選ぶのは抵抗があるらしい。なるべく皆が知っている無難な曲から始める。歌い慣れている人でも、1曲目は場の雰囲気を考え、聴き慣れていて歌いやすいシングル曲を選択し、アルバム曲は極力避けている。

一番重視しているのは友達との絆

小人数の場合、一番重視しているのは、仲の良い友達と楽しい雰囲気ですぐすということ、そのためにお互いが気分よく歌える、「歌いやすさ」、「音のよさ」が必要なのである。上手く歌えたことに対する自己満足もあるが、友達に「上手いね」と一言言ってもらえることが嬉しい。機能の良し悪しはさほど関係ない。

< 具体的な発言事例 >

自分が歌いたい曲を選曲

「仲良い友達と行くには訳があって、新しい新曲とかが出ると、『ちょっと今日ボロボロでもいい？』とか言って、『ちょっと今日練習したいから。歌ったことないし。』って。で、『ちなみに途中でやめてもいい？』みたいな。なんかそういうのが当たり前に来るから。あんまり仲良くない子とかだと、とりあえず、歌える歌じゃないかかんかになって感じがするから。何でも入れて、なんでもいいみたいな、その気軽さがいいかなくなっていう感じかな。」

< 大学1年生・女・19歳・月に2~3回 >

「(2人で行く時歌うのは)aikoとか。2人で行く時は仲良い子と行くんで、全然歌えない曲とかも普通に入れてたりして『わかんないから切っちゃうね。』とか、すごい気軽に出来るから、そういう所でいるんな曲チャレンジしたりとかする。そういう時にお互い『じゃ、この曲入れてみようよ。』とか。」

< 大学3年生・女・20歳・月に2~3回 >

「やっぱ気が合う友達の方だと、ちょっとしたヘマなミスでも笑って流れるんですけど、やっぱ生徒会の方とかで行くと、日頃そんなに話さない人とかもいるんで、もろに歌の上手い下手だけで、もう。」

< 浪人生・男・18歳・年に数回 >

「(歌う曲は)大体みんなが分かる曲。どうしても歌いたくなる曲は、入れる。みんなが知らなくても。(みんなが知らなくても、歌いたい曲を歌えたら満足?)うん。歌えなくてもチャレンジはしたいなって。」

< 高校3年生・女・18歳・月に2~3回 >

最初は皆が知っている曲

「『とりあえず、モー娘。いっとく?』って。みんなで。回して歌えるような歌を歌ってから、後はバラードでも何でも歌う。知ってる曲を。サビだけしか知らないとか、そういう曲は歌わずに、例えばアルバムを持ってるとか、そういう曲を見つけた順に入れる。」

< 高校2年生・女・17歳・月に2~3回 >

「(歌うのは)自分が普段聴いているような、好きな曲とか、あと、結構昔の曲とか。3、4人の時は、結構自分らが歌いたい曲中心なんで。結構、最初は3、4人でもノリやすい曲歌っても、後はもう全部1人で歌ったりとか。盛り上がりやすい歌。」

< 高校2年生・女・17歳・月に2~3回 >

「みんなが知ってる曲をなるべく入れようかって。(アルバムに入っているような曲)は、aikoが好きな子と行く時は歌うけど、じゃない時はあんまり歌わない。」

< 大学3年生・女・20歳・月に2~3回 >

「(歌う曲を選ぶ時は)雰囲気に合わせて。みんなが知ってるような曲を歌ったり。あんま静かな曲は歌わない。(自分が好きな曲でも、みんなが知らない曲だと)なんか、目が釘付け。静かになっちゃう。『あー、やっぱ嫌だな。』って(思う)。」

< 高校3年生・女・17歳・月に2~3回 >

重視していること

「まあ、自己満足かなくなっていう感じなんですけど。高い所が出た時とか。あと、友達に『歌、上手いね。』って言われた時に、なんかちょっと自己満足みたいな。友達に『上手いね。』とかって言われたら、満足かなみたいな。」

< 大学3年生・女・20歳・G3・月に2~3回 >

「やっぱ、自分の歌える曲を入れて、すごい声とかもちゃんと出て、場も楽しくて、もうそういう時は歌ってて気持ち良くて。仲の良い友達がいって、楽しい雰囲気であれば(満足)。みんながこの曲にノってるっていう感じ。(部屋の広さや照明は)そんなの、全然気にしない。気持ち的な問題。」

< 大学3年生・女・20歳・月に2~3回 >

「(気分良く歌うために重要なのは)行くメンバーとか人数。部屋は別に広くても狭くてもいいかなくて。行く人が楽しい人だったら、気分いいかなくて。(音は)30%位で、友達70%かな。」

< 高校3年生・女・18歳・月に2~3回 >

5. 大人数でのカラオケ

大人数の場合は盛り上がり重視

大人数の時は、モーニング娘。、浜崎あゆみなどが定番。しみりした曲や暗い曲は避け、とにかく「楽しい曲」「明るい曲」を選ぶ。皆が知っている曲、ウケ狙いの曲で、盛り上がるということが大前提である。満足感は、自分がうまく歌えることより、皆が盛り上がることで味あえる。自分の歌で、周りがはしゃいだり、踊りたりすると、「やった！」という感じである。

したがって、キー、音程などはほとんど気にならない。また、そうした場で細かいことを気にしていれば仲間と調和がとれない。

歌で自分のイメージ評価される

大人数の場合、気心が知れた人だけではないため、その場の歌だけで自分自身が評価されることを気にして、「上手く歌わなきゃ」という意識が強い。最初の出だしがいきなりズレたら「下手だな」と思われるので、「歌の入り」は特に意識している。したがって、「入り」がいつも聴いているCDと違うとなるとかなり不安を感じる。

また、選曲に関しても気を使っている。歌うチャンスが少ないので、あまり変な曲を歌うと、そういうイメージになってしまうから、皆が知っている無難な曲を、あらかじめ厳選している。皆が歌ってから、「これ系だったら大丈夫」というものを選択する人も多い。特に、その曲を歌っていた歌手がすでに音楽業界から消えてしまったような古い曲は避けている。

< 具体的な発言事例 >

盛り上がり重視

「(大人数の時は)とりあえず、楽しい歌。モーニング娘。とか歌っちゃいますね。しかも、最近のモーニング娘。じゃなくて、だいぶ前の、高校ぐらいの時の、知ってるよねぐらいの歌で。」

< 大学3年生・女・20歳・月に2~3回 >

「(大人数の時は)しみりした曲はなくなる。できるだけ、盛り上がりを大切にしたいんで、古くても有名な曲とか、マイナーな曲とかはあんまり歌わないように。やっぱり、定番はモー娘。とかだし。あとは、すごい古くても『学園天国』とか、すごい有名な曲とかだったり。友達とか、男の子とかは、ラブとかを歌ったりしてるんで、うちらはみんなに知られてる曲を歌います。得意じゃなくても。それはもう、みんなている時はそっち(盛り上がり)の方が優先。自分よりも、2、3人とかで歌ったりもする方が多いから。(キー)高さとか関係ない。(自分が上手く歌えた時よりも)盛り上がった時の方が(気分が良い)。」

< 高校2年生・女・17歳・月に2~3回 >

「結構、最初は3、4人でもノリやすい曲歌っても、後はもう全部1人で歌ったりとか。盛り上がりやすい歌。(自分が盛り上がるよりも)みんなで。それは、やっぱり打ち上げの時もそうだし、7、8人で行く時もそんな感じ。」

< 高校2年生・女・17歳・月に2~3回 >

「やっぱり、みんなが盛り上がって、ちゃんとみんなが知ってる曲を歌うようにします。モー娘。ら辺とか。メジャーな人。女だったら、あゆ(浜崎あゆみ)とかね。(みんなが知らないような曲だと)やっぱり盛り上がり欠けるしね。知らない。(知ってる曲だと)みんながリズムを刻めるけど、刻めないって言うか、知らないとやっぱり。普通に聞いているだけ、みたいになっちゃうし。参加してくれないって言うか。やっぱり友達みんなでパーっとやった方が(満足)。」

< 高校2年生・女・17歳・月に2~3回 >

「みんなが知っている曲で、友達と歌うことが多い、2次会の時は、1人じゃなくて、友達と2人で。結構明るい曲。例えば、モー娘。とか、みんなで騒げる曲。(普段歌う曲は)歌わない、たぶんそういう時は全然。そういう雰囲気じゃないし。別にそういうのは、そういう時に歌えばいいし。」

< 大学3年生・女・20歳・月に2~3回 >

歌で自分のイメージ評価される

「みんなで行く時は。やっぱ、これにそれはないだろうみたいなのとかが歌われたりすると、『ちょっとねえ。』みたいな感じで思う時あるから、そういうのは気を使って。ちょっと古いのだと、『ちょっと違う？』みたいな感じになったりとかするかなって。(歌う曲は)そういう時考えたりとかする。何曲目とかだったらいいけど。まだ、その人自体がいるし、『なんかすごい昔じゃない？あれ。』みたいな感じじゃなければ、大丈夫かなっていう感じ。(歌うことにしている歌手は)今君臨しているから、一応。」

< 大学1年生・女・19歳・月に2~3回 >

「とりあえず、全員が知っている曲を選ぶかな。あと、あまりそれないように。どうでもいい人とかはいいけど、全然知らない人とかだと、みんなが歌ってから歌うとか、考えると、『みんなこれ系できたか。』みたいな。この辺できたら、こんな感じだったら無難だろうって。」

< 大学1年生・女・19歳・月に2~3回 >

「でも、結構どっちかって言うと、あえてウケ狙いの曲とか。慎吾ママとか歌ったりするしね。野猿とかね。そういう系ですね。」

< 高校2年生・女・17歳・月に2~3回 >

「やっぱ気が合う友達の方だと、ちょっとしたヘマなミスでも笑って流れるんですけど、やっぱ生徒会の方とかで行くと、日頃そんなに話さない人とかもいるんで、もろに歌の上手い下手だけで、もう。(自分を評価されている気がしますか?)はい。気の合う友達の方は、歌以外の面でも色々遊んだりしてるんで、そんな歌だけで評られることはないんですけど。生徒会の方は、生徒会の仕事と遊びに行っただけで決まっちゃうんで。」

< 浪人生・男・18歳・年に数回 >

若者にとって、カラオケBOXは、好きな曲を歌うだけでなく、人目を気にせず、友達と騒いだり、おしゃべりできる、精神的なストレス発散の場であり、遊びの中で重要な位置付けを占めている。

言い換えれば、カラオケBOXは、先生のこと、お金のこと、進路のことなど、周りを気にせず、何でも気がねなく話が出る、「自分たちだけの空間（密室）」といえる。

そんな空間の中でも、友達との距離感を測定しつつ、どう自己表現するかを考える若者の姿がみてとれる。同じカラオケでも、シチュエーションによって若者の行動と意識に変化も見える。仲の良い友達と小人数で行く場合には、失敗を気にせず、自分が歌いたい曲、新曲などに挑戦するが、大人数で行く場合には、盛り上がりを重視して、皆に良く知られた曲を厳選する。

すなわち、上手く歌うことで自己満足を満たそうとする欲求と、「他人からどう評価されるか」を気にしながら、グループの盛り上がりを客観的に測定しようとする意識の、2つの姿が見える。

今後、カラオケに関わる業界としては、こうした若者の行動を常に把握しつつ、その行動の背景に見え隠れする意識を的確に掴み、その欲求に即した具体的な施策を展開していくことが求められる。